

令和5年度 日南市立南郷中学校 学校経営報告書

○ 学校経営ビジョン

「協力」「協調」「協働」をキーワードに、【チーム南郷】として学校教育目標の具現化に努め、保護者や地域に信頼され、一人一人が輝ける学校を創造する。
4段階評価 [4 期待どおり 3 ほぼ期待どおり 2 期待を下回る 1 改善を要する]

令和6年2月

重点目標	評価項目	具体的取組・実践(数値)目標	指標別評価	総合評価	結果の考察・分析及び改善策	学校関係者評価及びコメント
1 学力の向上(知) ◆ 自ら学びに向かう生徒を育成する。	① 授業改善の推進 ＜CAPD サイクルの確立・ロイロノートの活用・一人一研究授業の実践・『南郷スタイル』の徹底＞ ② 基礎的な学力の定着 ＜発達段階に即した学習課題の提供・ICTの活用・自律型宅習習慣の確立・ノーマディアの取組＞ ③ 読解力の育成 ＜探求的な学習の推進・活用問題の作成・読書習慣の育成＞ ④ 特別支援教育の充実 ＜組織的な個別支援体制の整備・研修の充実＞	① 諸検査分析や、「4+4」のチェックポイント」による相互授業参観 WEEK(2週間)を年2回実施し、さらに CAPD サイクルに沿った授業改善を行うことで、評価3・4の合計が80%以上を目指す。また、普段の授業では、全職員で『南郷スタイル』の徹底を図る。 ② ICTを活用した学習内容の精選や、学力向上通信「学ぶ力」を定期的に発行して学習の意義や重要性を生徒及び保護者に周知することで、毎日の家庭学習時間が90分以上となるようにする。これらの取組を通して、学校と家庭が連携して学習指導にあたる。 ③ 定期テストにおいて、諸検査分析を参考に活用問題を作成し、各教科で記述式の問題に慣れさせ、無答率の減少、正答率の増加を目指す。 ④ 朝自習の時間を活用し、読書や新聞読み取り等を実施し、読解力の向上を図る。 ⑤ 校内教育支援委員会を年4回開催し、組織的な個別支援体制の整備を図る。	4 3 3 3 3	3.2	① 計画通り毎学期1回の相互授業参観 WEEK(2週間)を実施し、「4+4のチェックポイント」を意識した授業を展開することができた。また、学力向上(授業改善)取組レポートを作成し、日々の授業改善に努めるなど CAPD サイクルを実践することができた。 ② 諸調査を分析した結果など、学力向上通信「学ぶ力」で周知することができた。しかし、一部の保護者のみの返信に留まり、学習の意義や重要性について、広く浸透を図ることはできなかった。 ③ 各教科担任で協議し、定期テストに活用問題を出題することができた。来年度は単元末などで活用問題を扱い、習熟を図っていきたい。 ④ 朝自習は、読書や各教科の習熟の時間として活用することができた。 ⑤ 年4回の校内支援委員会を実施して、校内で可能な支援体制を整備し、関係機関に相談した。	○ タブレット等の ICT を活用した授業や実物を提示して生徒の興味・関心を高めるなど、授業に工夫が見られた。(授業参観から) ○ 校内研究はよくできていたと思う。 ○ 先生方の努力が少しでも子どもたちに伝わればいいと思う。 ○ 生徒数の減少による競争力の低下が学力の低下につながっているように思う。早く、自分の進路を決めて家庭でも学習が進むようお願いしたい。 ○ 成績については家庭での教育が原因では？ ● テスト結果が悪い。 □ 復習の強化が必要である。
2 心の教育の充実(徳) ◆ 『ルール・マナー・モラル』の視点で判断し、豊かな人間性や社会性を身に付けた、自律した生徒を育成する。	① 基本的な生活習慣の確立 ＜自律型校則の浸透・凡事徹底・脚下照顧＞ ② 情報モラル教育の充実 ＜ネットトラブル防止教室・実態調査＞ ③ いじめ・不登校問題への対応 ＜生活アンケート・教育相談・関係機関との連携・校内支援委員会＞ ④ コミュニケーション力の向上 ＜イトコメガネ・さきがけあいさつと返事＞	① 毎月の身だしなみ点検実施と、毎学期の校則検討委員会で校則の見直しを図る。 ② 時間を守る、あいさつをする、返事をするなどの凡事徹底を図る。 ・靴並べ指導「脚下照顧」を通して、落ち着いた学校生活を送れるようにする。 ③ ネットトラブル防止教室等を実施し、情報モラル向上に向けた啓発を図る。 ・スマホ等に関するアンケート調査を実施し、実態把握に努める。 ・事例をもとに情報モラルに関する職員研修を行い教師の実践的指導力を高める。 ④ 月に1回、生活アンケートを実施し、生徒の実態把握に努める。 ⑤ 週に1回、主任会を実施し、不登校生徒や気になる生徒の共通理解を図る。 ⑥ 月に1回、チーム支援会議を開き、スクールワイド PBS の理解と実践を図る。 ⑦ 月に1回、中央委員会を開き、各委員会の活動状況を報告し改善を図る。 ・行事の運営に積極的に携わり、生徒主体での活動を推進する。 ・南郷ポストを活用し、学校の現状を確認し改善を図る。	3 3 2 3 3 3 3	2.9	① 服装・容疑面の大きな乱れは見られなかった。校則検討委員会を通して、校則の改善を図ることができた。 ② 先がけ挨拶をする生徒が増え、靴並べも概ね整ってきた。 ③ スマホ・携帯電話に関するアンケートの結果やネットトラブルが発生したことなどから、次年度からは年2回の情報モラル教室を計画的に実施し啓発を図っていききたい。職員向けの研修の充実も図っていききたい。 ④ 生活アンケートを計画的に実施し、いじめ等の早期発見・早期解決を図ることができた。 ⑤ 週1回の主任会で、不登校や気になる生徒の状況や対応について共通理解をすることができた。 ⑥ 隔月のチーム支援会議では、スクールワイド PBS についての理解を深め、生徒への還元を図ることができた。 ⑦ 中央委員会を機能させることで、話し合いのスキルが向上し、生徒主体の活動の推進にもつながった。	○ 校則の改善は素晴らしいと思う。 ○ SNS をほとんどの生徒が利用する現状を考えると、ある程度の問題が発生することは想定内だと考えてよいと思う。引き続き予防的な情報モラル教育と問題発生後の適切な指導をお願いしたい。 ○ ネットトラブル防止は大切だ。 ○ スマホトラブルの件については、学校の対応は良かったと思う。 ○ スマホの使用については、保護者の認識が一番大事だと思う。 ○ ネットトラブルについては、保護者も含めて講習を受けるとよい。 ○ 生活アンケートは大事である。 □ ネットトラブルの更なる防止と目に見えないいじめ(SNS等)にも心配りを願います。 ● 不登校対応はなかなか大変だと思う。何に原因があるのか…。小学生時から不登校の子はやはりか…と思う。 □ 不登校生徒について、家庭との連携を密にしてほしい。
3 健康・安全教育の充実(体) ◆ 心身ともに健康な生徒を育成する。	① 健康教育の推進 ＜健康相談・肥満防止・メディアコントロール＞ ② 安心・安全な健康づくり推進 ＜命の教育・防災教育・感染症対策＞ ③ 体験的な活動の推進 ＜キャリア教育(職場体験等)・福祉体験・部活動・ボランティア活動＞	① 対象生徒に定期的な体重測定を行い、肥満(軽度、高度)の割合を5%以下にする。(令和5年度初め11.5%) ② 生活リズムを自主的に整えられるように学習部と連携し、ノーマディアの取組やレインボープランで SNS との向き合い方について理解を深め自己の生活リズムを調整できる生徒100%を目指す。 ③ 避難場所、避難経路の確認を全校生徒で行い、常時、天災に遭っても避難できる生徒率100%を目指す。 ・年2回の体験的な活動を計画し、防災意識を高める。 ④ 手指消毒や手洗い、うがいを徹底し感染予防に努める生徒100%を目指す。 ⑤ 体力テストの分析結果から自らの体力の現状を理解し、積極的に運動を行う生徒の割合85%を目指す。 ・部活動を通して、自己存在感の向上や共感的人間関係の構築を図る。	3 2 3 5 3	3.2	① 肥満の割合については部活動の効果もあり、減少傾向にあるが、肥満の生徒の中には、運動嫌いで運動習慣がない生徒がいる。このような生徒に、どうアプローチしていくかが重要となる。 ② レインボープランで SNS を用いた教材を扱ったり、性について理解を深めたりする体験活動を行った。しかし、知識として分かっているが実践できていない生徒が目立つようになってきている。 ③ 5月に地区別避難場所・経路の確認を行い、避難訓練を年2回(火災・地震)実施したが、体験的な学習をすることができなかった。来年度は実施したい。 ④ 手指消毒、マスク着用はほぼ全員の生徒が守り、校内での感染予防に努めることはできている。 ⑤ 体力テストの結果から積極的に運動を行う生徒は90%であるが体力テストの結果は平均以下である。	○ 肥満が成人病に繋がることなどを家庭にも伝え、対策を行ってはどうか。 ○ 地域のスポーツインストラクターの導入は？ ○ 「命の教育」での成果はこれからでしょうか？ □ 能登半島地震の発生を見て、南海トラフ地震への備えは重要だと感じた。本校は高台にあるので津波の心配は少ないと思うが、次年度は体験型の訓練をしてもらえると思う。(2) □ 学校内での避難訓練も大事だが、登下校中や家に居るときなどの訓練も大事だ。地区と協力して訓練してほしい。中学生は頼りになる。(2) ○ 感染症については自分の身は自分で守ることが基本。家庭でも習慣づけをお願いしたい。 ○ 帰宅部が少なくなったのでしょうか？ ＜参考＞入部率(バドミントン・水泳含む)→3年生:91%、2年生:84%、1年生:74%
4 家庭・地域との連携 ◆ 家庭や地域と連携し、地域から誇りにされる開かれた学校を創造する。	① 日南ふるさと学の充実 ② 地域の素材・人材を生かした、体験的で質の高い学びの実現 ③ 学校運営協議会の充実と活用 ④ 家庭・地域への積極的な情報発信 ⑤ 地域に発信・貢献できる教育活動の創造	① 港の町南郷を知る活動や職場体験学習等、総合的な学習の時間を中心に地域に根ざした活動や地域の素材・人材を活用した活動を学期1回以上実施し、日南ふるさと学の充実を図る。 ② 年3回の学校運営協議会を実施し、学校が抱える課題の解決を目指す。 ③ 学年通信・学級通信・HP等による情報発信を週1回以上行うことを目指す。 ④ 参観日出席の呼びかけを学年通信等で行い参観日の参加率80%以上を目指す。 ⑤ 地域コーディネーターと連携し、地域人材を活用した取組を年複数回実施する。	3 4 4 3 4	3.6	① 総合的な学習の時間を中心に地域に根ざした活動を計画的に実施することができた。キャリア教育の視点で、生徒の成長や人材育成につながるよう事前事後の学びも含めて充実させていく。 ② 年3回の学校運営協議会を実施し、様々な視点で解決策について協議を深めることができた。 ③ 定期的な情報発信を各担当で実施できた。 ④ 参観日は早めの案内を行い、参加率の向上を図った。(第1回85% 第2回69% 第3回53%(文化発表会には77%の参加者)) ⑤ 地域コーディネーターとの連携により、特色ある体験的な活動を実施することができた。	○ 地域との連携は素晴らしいと思う。(2) ○ 「南郷ならではの」授業が展開されていると思う。参加している子どもの目の輝きを見ると楽しくなる。 ○ 参観日の出席者が増えたのが喜ばしい。 ● 生徒・教師の評価に比べ保護者の評価が低い。学校からのたより等を見ていないのではないか。

